



産婦人科が上位独占 病院HPの部門別アクセス数

当院のホームページの中で、トップページなどを除いた部門別のアクセス数(平成22年度)がこのほどまとまり、産婦人科関係が上位を独占し、小紙のページも3位にランクインしました。今後も有益な情報を盛り込んだページにしていきたいと思ひます。

1位	産婦人科(特色・取り組み)	12,531
2位	産婦人科(スタッフ紹介)	7,576
3位	へその緒通信	7,158
4位	ペースメーカー植え込みCP	6,446
5位	消化器内科(特色・取り組み)	4,744
6位	泌尿器科(特色・取り組み)	4,689
7位	外科(特色・取り組み)	4,628
8位	整形外科(特色・取り組み)	4,532
9位	看護部(特色など)	4,090
10位	消化器内科(スタッフ紹介)	3,991

産婦人科/特色・取り組み

産科・小児科・麻酔科の連携で安全な出産
助産師34名の「赤ちゃんにやさしい病院」

【産科外来】
妊婦さん出産希望の方
産前・産後希望の方

不妊治療は腹腔鏡から顕微鏡授精まで幅広く
生殖医療指導医と胚培養士が丁寧に対応

【不妊外来】
赤ちゃんを望まれる方
治療を繰り返す方

婦人科がんは早期診断・早期治療で
経験豊富な医師が専門婦人科手術

【婦人科外来】
手術が必要とされた方
出血・腹痛などが心配な方

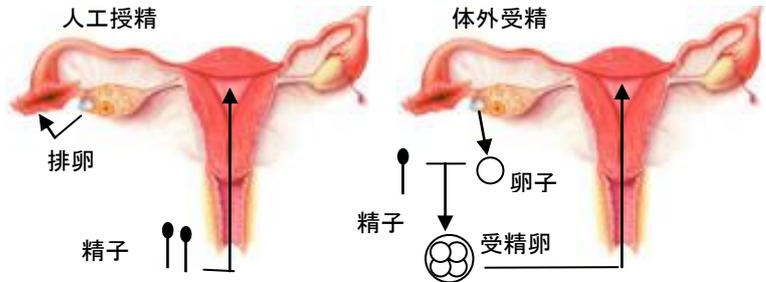
主な診療内容

- 産科の診療
母乳育児の指導
分娩(陣痛)の出産
後産後(産後)の出血
新出生児のケアの指導
合併症がある方の出産
- 不妊症の診療
排卵検査薬、人工授精
体外受精、顕微鏡授精
凍結解凍、子宮鏡手術
反流逆流の検査、治療
- 婦人科の診療
子宮頸がんの円錐切除
子宮体がんの手術
卵巣がんの手術、化学療法

人工授精は「授」で体外受精は「受」

不妊治療の代表的な方法である人工授精と体外受精。よくみると「授」と「受」で漢字が違ってきます。また言葉から実際にどんなことをするのか分かりにくい、という声もよく耳にします。両者の違いについて、元助産師(新潟弁)の臍ばあちゃんと、孫で助産師学生的美緒ちゃんが語り合います。

臍ばあ: 済生会病院では不妊治療もしかも(たくさん)手がけているようらな。
美緒: 1年間に人工授精が約250回、体外受精が約150回行われているそうよ。
臍ばあ: 人工授精と体外受精? 何ぞおんなしよろこて。
美緒: 人工授精は比較的簡単な治療法で、夫の精子(濃縮・洗浄したもの)を排卵日に子宮内に注入するだけなの。排卵は普通にお腹の中で行われるので、卵管が正常であることが条件ね。精子がやや少なめの場合や、原因不明の不妊症が対象になるの。一方、体外受精は卵巣から卵子を取り出して、体外で精子と一緒にして受精させ、得られた受精卵(胚)を子宮に注入するの。卵管の異常や、重度の子宮内膜症、高度の男性不妊など、どんな状況でも使える治療法なの。



	所要時間	卵子処理	子宮注入物	施行条件	費用	妊娠率
人工授精	外来 40分	なし	洗浄精子	卵管正常	1万円	12%
体外受精	入院半日	採卵	受精卵(胚)	特になし	20万円	35%

臍ばあ: やいやー、人工授精は「人工授精」と書くんでねえのらろか。
美緒: 授精は精子を授けるという行為、受精は精子と卵子が合体するという現象を示しているんじゃないかな。だから精子を子宮内に注入する方法は人工「授精」で、体外で受精が起こる方法は体外「受精」となるの。

臍ばあ: そらろも、体外受精の方がばか人工的のようらろも、もう一方のがん(もの)が人工授精らば、まぎらわしいんでねっか。
美緒: 確かに人工授精の「人工」が良くないのよね。しかもおばあちゃんみたいに人工「受精」と思っている人は、体外受精とどこが違うんだとなるわよね。人工授精は簡単な治療なんだけど、大ごとだと誤解してしまうの。

美緒: 子宮内に精子を注入する人工授精の別の言い方に、子宮内授精という言葉があるんだけど、これだとどういう行為か分かりやすいわよね。

臍ばあ: そげんハイカラな言い方があるんらば、何で言わねんら。どーしよば。
美緒: 人工授精が日本で最初に成功したのは1949年で、1983年の体外受精よりずっと前からあったの。それで人工授精という言葉が定着してしまっただのね。

臍ばあ: あと最近の顕微鏡でやるがん(こと)はなじらね。授精かね受精かね。
美緒: ああ、顕微鏡授精のことね。顕微鏡授精というのは体外受精に含まれる手技だけれど、体外で精子が自然に卵子に飛び込むのが普通の体外受精で、精子を人工的に1個注入するのが顕微鏡授精なのね。これは、精子を卵子の中に授けるわけだから「授精」となるのね。



臍ばあ: そういんだ。おめさんの話聞いて頭がいてなったこて。せつねー。

保健指導をDVDで

9月12日から、36週を迎えた方への保健指導でDVDを使用しています。従来は当院作成のテキスト『マタニティブック』にそって助産師が口頭で説明していたのですが、DVDを見ていただくことで視覚・聴覚の両方から指導内容を捉えていただけるようになりました。10月下旬には18週・28週を迎えた方の保健指導でもDVDを使用していきます。

『マタニティブック』内の『妊娠中の健診と検査の流れ』のページには、保健指導のある週数についても記載されていますので、「次の健診は保健指導があるわ」と分かるようになっていきます。保健指導のある時にはイヤホンをお持ちいただくよう、皆さんよろしくお祈りします。保健指導DVDラインナップは右のとおりです。(製作担当・伊勢亀千紘)

第1回(18週)母乳育児、切迫早産、体重管理、骨盤ケア 第2回(28週)貧血、パースプランについて、体重管理 第3回(36週)入院の時期・方法、荷物について